

『イエスは招く』（マルコの福音書 2章 13-17節）2023.7.2.

<はじめに>「この教会は、いい人たちばかりです」という声を聞いたことがあります。それを聞いてどう思いますか。いい人でなければ、教会に行けないのでしょうか。教会の中心はイエス・キリストです。イエスの周りに集まって来る人たちは、どんな人たちでしょう。

I 食卓を巡って

① イエスについて行く人々(13-14)

イエスが湖のほとりへ出かけると、彼の教えを聞こうと大勢の群衆が集まって来ます。この群衆の中には、どんな人たちがいたでしょう。道すがら、イエスは収税所に座っているレビを招きます。「わたしについて来なさい」は、イエスの弟子になりなさい、の意です。

② 二つに分かれる人々(15-16)

イエスに従ったレビは、イエスと弟子たちを自宅に招き食事を振舞います。そこには同業の取税人や罪人も同席していました。イエスについて来た群衆は、食卓に着く者と着かない者に分かれます。そして、着かない者は「なぜ、あの人は…？」と弟子に質問します。

③ 「なぜ？」に潜む思い

パリサイとは「汚れから自らを分け隔てる」の意です。律法学者は取税人を売国奴として毛嫌いし、律法を順守しない人を罪人扱いし、彼らと一線を画していました。そのような人たちと一緒に食事をしないことから、彼らが何を大事にし、恐れていたのか垣間見えます。

II イエスは来られた

① 関わらない人たちの思い(16)

怪しい汚れた人たちとは接触しない、関わらない、交わらないのは、自分を清く保とうとしてです。罪・汚れは接触感染すると言わんばかりです。イエスに関心を向けていた彼らとしては、イエスがそのような人たちと関わりを持つことが理解できません。

② イエスの理解(17)

彼らが弟子に尋ねる声を聞きつけて、イエスが自分を医者に例えて答えます(17)。イエスが取税人・罪人と関わるのは、彼らの行いと考えを是認・同意しているからではありません。むしろ、彼らを神の前に健全な心と生き方へと変えて、正しい人にするためです。

③ 招くために来たのは

患者と向き合う人たちは自ら罹患しないよう人一倍注意を払いながら、病人と病気に向き合います。思い悩む人と関わり、その人を正しい人に造り変えるために、イエスは私たちの生活の現場に連れられ、一緒にいて、私と向き合ってください(イ 367-3)。

III イエスは招く

① 招かれる者の手本(15-16)

レビがイエスを食事に招待したのは、自分を弟子に招き、加えてくださったからでしょう。イエスとレビの間には招き招かれる交流があります。イエスもレビも相手の招きに快く応じています。私たちが招待を受けているのに、いろいろと考え悩むのはどうしてでしょう。

② わたしを呼べ(17)

病人は治ろうとして医者にかかります。自分で治せるなら不要です。罪汚れを抱えて、良くなりたいたいと思っている人に、「自分で頑張れ」とイエスは言われません。「わたしを呼べ」(エレミヤ 33:3)と神は呼び掛け、イエスをその人のそばに遣わされています。

③ イエスを必要とする

日々の生活の中で、私たちは自力で何とかしようと頑張っていますが、自分ではどうすることもできない事も多々あります。そのとき、私たちは神を、救い主イエスを呼び求めましょうか。必要とされている人・場面にイエスは関わりたい、関わろうとしておられます。

<おわりに> これらのことから、教会はイエスを必要としている人たちの集まりだとも言えます(ひむなる 120)。イエスをご自分を求める人たちに答えられます。あなたは、イエスを必要としていますか(イ 146-1)。(H.M.)